

# ひょうご新観光戦略の中間見直し(後期重点取組)

コロナ後のインバウンドの回復状況や神戸空港国際チャーター便の就航など社会情勢の変化に対応するため、ひょうご新観光戦略(R5-R9年度)の中間見直しを実施し、戦略後期2か年の重点的な取組施策を策定する

## 1 中間見直しの方向性

<b>目指す姿</b> (現行戦略R5～R9)	より深く、何度でも訪れたい地、HYOGO - 訪れた多様な人々の感動を呼び、暮らす人々の幸せへ -
<b>前期課題</b>	インバウンド宿泊者数の伸び率や平均泊数が全国下位、観光消費単価も全国第43位と低迷 <div> <div>兵庫県 + 12.3%、全国平均 + 41.4% (2019年・2024年比較)</div> <div>兵庫県1.45泊、全国平均1.80泊 (2024年)</div> <div>兵庫県35,207円、全国平均58,273円 (2024年)</div> </div> ⇒ インバウンド宿泊者数をいかに増やし、長期滞在につなげるかが課題
<b>中間見直しの考え方</b>	■課題やWMG・神戸空港国際化・旅行者の嗜好変化などを踏まえ、後期に注力すべき施策の方向性を明示 ■ <u>オーバーツーリズムに陥らないよう、量と質のバランスを考慮</u> したインバウンド誘客の充実を図るとともに、関西・首都圏を中心とした国内誘客にも継続して取り組む
<b>方向性①</b>	<div> <div>兵庫を拠点とする 新たな広域観光圏の創出</div> <div>           ■神戸空港国際チャーター便就航による新たな人の流れができつつある            ■潮流の変化を契機とし、兵庫を拠点とした、大阪や京都、瀬戸内エリアをテーマに即して周遊する新たな広域観光圏を創出         </div> </div>
<b>方向性②</b>	<div> <div>インバウンド拠点からの プラスワントリップ</div> <div>           ■インバウンドの周遊ルートに本県主要観光地を組み込み、プラスワントリップする人の流れを増やす            ■本県主要観光地と体験型コンテンツをつなぎ、県内周遊・長期滞在・宿泊を促進         </div> </div>

## 2 戦略後期 2 か年で重点的に取り組む施策

### 兵庫の強みや独自性を活かしたツーリズムの推進

#### 兵庫を拠点とするツーリズムの推進

##### ■ウェルネスツーリズムの推進

- ①神戸ビーフ・日本酒等のテロワール(※)、②温泉等のリトリート(※)、③ゴルフ等のスポーツをテーマとしたツアー造成

テロワール：食や文化体験など、その土地ならではの個性や風土  
リトリート：日常から離れ、心と体を癒す場や体験

#### 県内周遊・長期滞在を促進するツーリズムの推進

##### ■ひょうごフィールドパビリオン等の深化

- 着地型・体験型コンテンツ等を活かしたツアー造成・販売

##### 【多様な主体との連携】

- 物産や飲食、二次交通事業者等との多職種連携
- 関西観光本部やせとうちDMO等との広域連携

### 戦略的な誘客プロモーションの展開

#### 兵庫への認知・興味を高めるプロモーションの展開

##### 【誘客ターゲット】

- 観光資源の価値を見出し、地域の伝統や文化等を尊重する高付加価値インバウンド

##### ■神戸空港就航地を中心とするアジア

- エアラインと連携したファムツアー(※)などによる早期誘客

##### ■欧米豪

- 認知度向上に向けた海外観光レップ機能(※)やOTA(※)の活用

ファムツアー：観光関係者等へ観光地の魅力を伝える視察型招待ツアー

海外観光レップ機能：海外メディアや旅行会社等に対する営業活動や情報発信を代行

OTA：オンラインで旅行商品を予約・販売する旅行会社

### 観光地域を支える受入環境の整備

#### サステナブルツーリズムが実現できる兵庫の確立

- サステナブルツーリズムへの機運醸成・宿泊事業者等に対する国際的なサステナブル認証ラベル取得支援

#### 高付加価値化に向けた観光人材の育成

- 多様なニーズに対応する有償ローカル・スルーガイド(※)の育成
- ゴルフツーリズムに精通した人材の養成

スルーガイド：旅の行程全体に同行し案内するガイド

### 観光DXの推進

##### ■観光産業の生産性向上

- 生成AIの活用や顧客予約管理システムの導入等に向けた機運醸成・エリア単位での導入支援

##### ■旅行者の利便性向上

- 生成AIを活用した観光ルート等を提供するシステムの構築

## <参考> 重点業績評価指標（KPI）の現状

観光消費額や延べ宿泊者数（国内）、観光消費単価（国内・宿泊、国内・日帰り）は、全国旅行支援や兵庫DCなど大型キャンペーンも相まって順調に回復しており、概ね目標を達成する見込み

インバウンドの延べ宿泊者数や観光消費単価は、コロナ禍における海外渡航の自粛や各種規制が緩和され、世界的な観光客の回復もあってコロナ前(2019年)の水準は超えているものの、目標達成には更なる取組が必要である

指標	2019	2023	2024	2027
	基準値	戦略1年目	現状値（戦略2年目）	目標値
観光消費額	12,312億円	15,677億円	15,059億円	14,500億円
平均泊数	1.22泊	1.26泊	<b>1.25泊</b>	1.5泊
延べ宿泊者数（国内） a	1,305万人	1,411万人	1,500万人	1,500万人
同上（外国人） b	137万人	102万人	<b>151万人</b>	300万人
外国人宿泊者比率b/（a+b）	(9.5%)	(6.7%)	(9.1%)	(17%)
観光消費単価（国内・宿泊）	54,883円	66,198円	61,545円	64,000円
同上（国内・日帰り）	16,948円	21,858円	17,938円	19,000円
同上（外国人）	29,893円	32,091円	<b>35,207円</b>	60,000円
リピーター率	—	57.6%	56.7%	70%
来訪者満足度	—	62.9%	62.8%	80%
住民満足度	—	63.8%	64.0%	75%
（指標外）観光入込客数	13,651万人	12,232万人	12,529万人	—

2023年はコロナ特需（全国旅行支援※、コロナ自粛の反動）と言えるような特殊事情  
 ※全国旅行支援は「旅行者の負担を直接軽減」する補助のため単価への影響が大きい